

# 証拠・ツール(アンケート、辞書、データベース、音声学等)の違いからみた『商標の識別性』、『類似』、『混同』の判断基準と対応策

講師	青木 博通 氏	ユアサハラ法律特許事務所 パートナー・弁理士	
日時	2025年1月31日(金) 13:30~16:30		

◆商標の権利形成、商標権侵害、不正競争防止法2条1項1号・2号の適用において、判断の難しい、商標の識別性、類似、混同について、証拠・ツールの違いの視点から解説します。

◆証拠・ツールについては、需要者アンケート、辞書、データベース、音声学等について紹介し、このような証拠・ツールが裁判、審判において、どのように活用されているか解説します。

◆商標の識別性(独占適応性)については、その程度の差を説明し、それに見合った証拠・ツールの活用方法を解説します。

例えば、「ありふれた氏」かどうかを判断するデータベースとそれに基づく審決例を紹介します。

◆商標の類似については、商標の類否、商品・役務の類否の判断基準について裁判例をベースに説明し、対応策として、商標の変更、コンセント、アサインバックについても言及します。

また、商標法、不正競争防止法2条1項1号(混同)、同2号(希釈化)における類否の判断基準の違いについても解説します。

◆商標の混同については、商標の類似との違い、混同概念の拡張の傾向、商品の価格差がある場合などについても解説します。

◆最後に、まとめとして、商標の識別性、類似、混同の関係についても解説します。

◆本セミナーに参加することにより、商標法および不正競争防止法の重要な概念である、識別性、類似、混同を深く理解することができます。また、それぞれの概念の検討により、商標法および不正競争防止法を体系的に理解することができます。

## 【解説内容(予定)】

### I 商標の識別性

1. 関連条文の趣旨・解釈(識別性、独占適応性)
2. 商標の識別性判断の証拠・ツール
3. 商標の識別性に関する裁判例・審決例
4. 最近の動向と対応策(商標の変更も含む)

### II 商標の類似

1. 関連条文の趣旨・解釈(商標法と不競法の違い)
2. 商標の類否判断の証拠・ツール
3. 商標の類否に関する裁判例・審決例
4. 商品・役務の類否に関する裁判例・審決例
5. 最近の動向と対応策(商標の変更も含む)
6. コンセント制度とアサインバック制度の活用

### III 他人の業務に係る商品等との混同

1. 関連条文の趣旨・解釈
2. 混同の判断の証拠・ツール
3. 混同に関する裁判例・審決例
4. 類似と混同の違い
5. 混同概念の拡張(米国の影響)
6. 最近の動向と対応策(商標の変更も含む)

### IV まとめ(識別性、類似、混同の関係)

テキストはPDFで共有させていただきます

◇この研修は、日本弁理士会の継続研修として申請中です。この研修を受講し、所定の申請をすると、外部機関研修として2.5単位が認められる予定です。(※zoomにてご参加下さい。アーカイブ視聴は単位認定対象外です。)



ライブ配信だからその場で講師に質問可能 & アーカイブ配信も実施(各講義翌日から1週間)



・聞き逃しても安心!期間内はなんども、再生速度を変更可能!

受講料 会員10,200円 一般12,000円(※税込)

申込 「発明推進協会 研修」で検索  
[http://www.jiii.or.jp/kenshu/chizaikenshu\\_tanki.html](http://www.jiii.or.jp/kenshu/chizaikenshu_tanki.html)



申込みページ  
QRコード

お問合せ先 (一社)発明推進協会 研修チーム TEL 03 3502 5439